

胃粘膜下腫瘍で経過観察

Q 50代女性で、5年前に胃カメラ検査で胃粘膜下腫瘍が見つかりました。当時は5mm以下でしたが、昨春の検査では倍になつていました。かかりつけ医には「良性だし、手術は必要ない。念の

ため年に2回、胃カメラで検査を」と言われました。悪性になる血管腫などがあります。上皮性はカルチノイド、転移性がんなど

⑪

A 胃粘膜下腫瘍は、胃の表面の粘膜層より深い部位にある隆起性病変です。胃壁を構成する筋肉、血管、神経や、他臓器の迷入組織から発生します。

状態変われば精密検査を

種類では、非上皮性はGIST（消化管間質腫瘍）、平滑筋腫、平

に及び、原因もさまざまです。発症予防のため

いて針生検をします。GISTは、腫瘍径

大傾向や悪性を疑う所見があれば手術（開腹手術または腹腔鏡下手術）をします。内視鏡

手術治療をした場合、腫瘍と切除の大きさによりますが、特別な後遺症はあまりないと思われま



佐藤貴一内視鏡部長

鏡検査のほか、超音波内視鏡検査、コンピュータ断層撮影（CT）、磁気共鳴画像装置（MRI）があります。

腫瘍径が5mm以上のも

GIST以外の胃粘膜下腫瘍は、良性なら

出血などの問題があれば



胃粘膜下腫瘍

ば手術をします。悪性リンパ腫やカルチノイドの腫瘍性病変は、治療の適用です。

ご相談のケースは2cm以下なので、GISTだとしてもすぐに手術する必要はありません。良性の腫瘍も増大することはあります。

定期的な内視鏡観察で経過を見るのは、よい方法です。形や大きさに変化が生じたら、上述の検査を試みるのがよいです。現時点で1度検査をするのもよいかもしれません。将来変化が生じることがあります。

健康の不安や疑問について、読者の皆さんの質問を募集します。症状や経過をなるべく詳しく、その人の年齢、性別も書いてください。投稿者の住所、名前（ペンネーム可）、年齢、

性別を記入し、〒320-8686 下野新聞社くらし文化部「健康 110番」係へ。住所不要。FAX (028・625・1185)、メール (platina@shimotsuke.co.jp) でも受け付けます。

life

くらし

